

秦野市教育委員会では、平成29年4月18日に文部科学省により実施された全国学力・学習状況調査の結果の送付を受け、調査の目的となっている本市の児童生徒の学力や学習状況の分析とその改善を図るため「全国学力・学習状況調査結果分析・活用検討委員会（以下「活用検討委員会」という）」を組織し、分析を行ってきました。

この度、活用検討委員会による本市児童生徒の学力等の状況に対する分析が完了し、今後の学力向上と教育指導全般において何を大切にすべきかをまとめました。今後はこの分析をもとに教育施策の改善も含め、各学校と協力しながら学力向上と教育指導の充実を図っていききたいと考えております。

### 1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査対象

市内小学校13校の6年生及び中学校9校の3年生

### 3. 調査の内容

#### ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関するA問題及び主として「活用」に関するB問題

#### ②学習意欲や生活習慣等に関する児童（生徒）質問紙調査及び学校質問紙調査

### 4. 調査結果の概要

#### ①教科に関する調査の平均正答数・率(県と市の正答率は、今年度より国が整数値で提供)

		小学校				中学校			
		【知識】		【活用】		【知識】		【活用】	
		正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
国語	秦野市	10.6	71%	4.8	53%	23.9	75%	6.2	69%
	神奈川県	11.0	73%	5.2	57%	24.7	77%	6.5	72%
	全国	11.2	74.8%	5.2	57.5%	24.8	77.4%	6.5	72.2%
算数 数学	秦野市	11.0	73%	4.5	41%	21.6	60%	6.6	44%
	神奈川県	11.6	77%	5.1	46%	23.0	64%	7.2	48%
	全国	11.8	78.6%	5.1	45.9%	23.3	64.6%	7.2	48.1%

#### ②児童（生徒）質問紙に関する調査より一部抜粋

【学習意欲】	小学校 国語が好き	小学校 算数が好き	中学校 国語が好き	中学校 数学が好き
秦野市	58.3%	60.1%	57.1%	57.0%
神奈川県	62.7%	66.1%	62.3%	57.9%
全国	60.5%	65.9%	60.5%	55.4%

※調査問題の内容等詳細につきましては、文部科学省のホームページをご参照ください。

※本調査結果は、学力の特定の一部であることを留意して捉えておりますが、各教科で課題と見られる部分については分析をし、指導の工夫や改善等によって児童・生徒の力を伸ばしていく必要があると考えております。次ページ以降で分析結果の詳細について記載しております。

# 「教科及び児童質問紙に関する調査」結果の分析及び手だて

(小学校)

## 1 小学校国語科

国立教育政策研究所によると、平均正答率の±5%の範囲内は「大きな差は見られない」とされていますが、本市の調査結果では「知識」「活用」ともに、全国公立学校の平均正答率と大きな差は見られませんでした。これは各校での協働的学びの推進や言語活動を重視した授業改善を進めていることが成果となって表れてきているものと考えます。

### (1) 「知識」に関する調査

#### 「話すこと・聞くこと」

◎問題が違うため正答率は単純に比較できませんが、話すこと・聞くことに関する設問への無回答率は以前よりも低くなっています。

◇互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことにやや課題が見られます。

#### 「書くこと」

◎目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことについては、全国と同等程度できています。

#### 「読むこと」

◎読むこと全体は昨年と比べて改善が見られます。

◇俳句の情景を捉えることにやや課題が見られます。

#### 「伝統的な言語文化」

◎漢字を正しく読むこと「期限（きげん）」について相当数の児童ができています。

◇漢字を正しく書くこと「たいしょう（対象）」「きぼう（希望）」に課題が見られます。

#### 【手だて】

・漢字を正しく読んだり書いたりするためには、辞書を利用して調べる習慣を付けることが大切です。そのためには、国語の授業に限らず、いつでも辞書が使えるような環境をつくることが重要です。また、語彙を豊かにするためには読書も有効ですので、読書の時間を確保できるよう、学校や家庭での時間の使い方を見直すことも大切です。

・ある小学校では、国語で物語を読む際、教材の一部を隠したり教材を区切って提示したりするなど教材にしかけを作り、読んだ感想や考えを友達と伝え合う取組を行いました。その結果、読むことの設問に関して成果が見られました。物語の世界に引き込まれるような工夫をすることや読んだ文章についてめあてを持って話し合うこと、読書に親しめる環境を整えることが大切です。

### (2) 「活用」に関する調査

#### 「話すこと・聞くこと」

◎スピーチメモのよさを捉えることについては、全国と同等程度できています。

◇目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話すことに課題が見られます。

#### 「書くこと」

◎目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることについては、全国と同等程度できています。

◇必要な内容を整理して書くことにやや課題が見られます。

#### 「読むこと」

◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることについては、全国と同等程度できています。

◇物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られます。

### 【手だて】

- ・文部科学省による質問紙とのクロス集計分析によると、新聞を読む頻度が高い児童ほど、「活用」に関する調査の正答率が高い傾向が見られます。自分の考えをまとめたり内容を整理して書いたりすることには、新聞記事を活用した学習や時事問題を取り上げた学習など、様々な話題や適切な文章表現に触れる機会を多くもつことが重要です。また、その場に応じた適切な言葉を選ぶ機会をもつことも有効です。
- ・ある小学校では、「伝え合い」をテーマに授業研究に取り組み、児童が互いに意見交流する場を多く設定しました。その結果、話すこと・聞くことの設問に関して成果が見られました。国語の授業に限らず、学校や家庭での会話を大切に、普段から自分の意見を伝え、相手の意見を聞く活動を増やすことが効果的です。

## 2 小学校算数科

「知識」については、全国公立学校の平均正答率を5ポイント以上、下回る結果となりましたが、「活用」については、全国公立学校の平均正答率と大きな差は見られませんでした。各校での協働的学びや言語活動を重視した授業改善をさらに推進していく必要があると考えます。

### (1) 「知識」に関する調査

#### 「数と計算」

- ◎具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係は概ね理解できています。
- ◇数量の関係を数直線上に表すことに課題が見られます。

#### 「量と測定」

- ◎任意単位による測定について、全国と同等程度理解できています。
- ◇平行四辺形や三角形について、底辺と面積の関係の理解に課題が見られます。

#### 「図形」

- ◎立方体の面と面の位置関係について、全国と同等程度理解できています。
- ◇正多角形が、複数の合同な二等辺三角形で構成できることの理解に課題が見られます。

#### 「数量関係」

- ◎資料を二次元表に分類整理することについて、全国と同等程度理解できています。
- ◇資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題が見られます。

### 【手だて】

- ・問題場面的に捉え、数量の関係を図や数直線に表すことは、問題を解決する上で大切です。問題場面から数量の対応関係や大小関係を数直線上に表したり、数直線上の基準量にあたる1に対応する数量を問題場面から確かめたりする活動を取り入れていくことが考えられます。
- ・5年生までに身につけておくべき内容の中で、課題が見られる領域がありますので、基礎基本の定着に向けた丁寧な取り組みが必要です。例えば、学び合いにより主体的に取り組める授業方法を積極的に取り入れたり、本市が作成している「領域別フリプリ」や「わくわく学習プリント集」等を活用したりすることも有効です。また、算数を楽しいと思えるような、規則性や数学的な美しさに触れられるような教材の工夫をすることも大切です。

## (2) 「活用」に関する調査

### 「数と計算」

◎示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現することが全国と同等程度できています。

◇二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することに課題が見られます。

### 「量と測定」

◎飛び離れた数値を除いた場面の平均を求める式を判断することが、全国と同等程度できています。

◇仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題が見られます。

### 「図形」

◇与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の直径」に近い図形を選ぶことに課題が見られます。

### 「数量関係」

◎示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断することは、全国と同等程度できています。

◇割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことに課題が見られます。

### 【手だて】

- ・問題を解決するために、目的に合った適切な表やグラフを選択したり、グラフ同士を関連付けて解釈したりするなど、表やグラフを活用できるようにすることが大切です。例えば、新聞やインターネットなどから身近な話題を取り上げて、必要な情報を読み取ったり友達と説明し合ったりする活動が考えられます。
- ・各領域に関する内容が複合的に出題されるので、それぞれの領域の基礎基本の定着を図った上で、応用問題の練習の機会を増やしていくことが大切です。また、記述式の問題に関しては、根拠を明らかにして筋道を立てて考え、その考えを言葉や式、図、表、グラフなどを用いて表現する活動が有効です。また、友達同士で自分の考えを伝え合うことを繰り返すことも効果的です。

### 3 小学校質問紙

	27年度 【%】	28年度 【%】	29年度 【%】	全国 【%】
やり遂げてうれしかったことがある	94.9	94.1	93.8	94.8
人の役に立つ人間になりたい	93.1	93.2	90.5	92.5
学校のきまりを守っている	91.3	92.2	93.0	92.6
いじめはどんなことがあってもいけない	95.8	96.5	94.5	96.1
自分にはよいところがある	73.9	74.2	74.9	77.9
話し合うとき人の話や意見を最後まで聞く	94.8	93.7	94.6	94.3
話し合うとき友達の考えを受け止めて自分の考えをもつ			89.8	85.5
予習をしている	45.8	46.3	44.4	41.0
土日に1日2時間以上勉強	46.8	46.7	49.9	57.3
総合で課題を立てて情報収集したり発表したりしている	58.5	59.3	60.9	69.8
国語の授業で資料を読み、考えを話したり書いたりしている	59.2	61.3	63.0	68.0
算数でもっと簡単に解く方法がないか考える	75.1	77.9	79.6	81.4
2時間以上ゲームをしている	35.3	35.9	40.5	31.1
2時間以上スマートフォンをしている	12.7	12.5	16.5	12.0
テレビやインターネットのニュースを見る	88.5	87.2	94.8	94.0
地域行事に参加	62.3	62.3	54.0	62.6
授業では、自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して発表する(主体的・対話的で深い学び)	68.7	71.0	68.7	75.1
授業のはじめに目標が示された(H29からは授業の中で)	77.2	82.6	81.6	88.2
授業の最後に振り返る活動を行っていた	63.3	71.5	68.2	76.2
ノートに目標やまとめを書いた	69.3	78.5	78.2	88.7

#### 【質問紙に対する分析及び手だて】

##### (1) 生活面

本市児童の生活面では、「やり遂げてうれしかったことがある」「人の役に立つ人間になりたい」「学校のきまりを守っている」「いじめはどんなことがあってもいけない」の

項目で高い割合を維持しています。このことから、各学校での生活面での個に応じた支援が充実し、規範意識の高まりと、その中で友達と過ごすことで毎日の生活に充足感が生まれ、楽しく生活する姿につながっているとみています。また、全国平均には及ばないものの、3年連続で「自分にはよいところがある」の項目が伸びており、引き続き自己肯定感が高まっていくよう、教育活動の充実を図っていくことが望まれます。

一方、課題としては、「地域の行事に参加」している割合が下がっており、その解決のためには家庭や学校での働きかけが不可欠です。一例としまして、本市教育研究所事業の「はだっ子アワード体験活動部門」への参加や、子どもを育む懇談会や公民館等での様々な取組を活用し、地域に興味をもつきっかけを作ってみることが有効とみています。

さらに、「テレビやインターネットのニュースを見る」割合が非常に高く、世の中の情報に高い関心を持っていると言えますが、「スマートフォン、ゲームをしている」割合は全国と比較しても高く、家庭での過ごし方においてスマートフォンやゲームに依存している実態も推察されます。今後は、児童だけでなく保護者自身の意識も高められるよう学校と家庭が更なる連携を図るとともに、学校においてICT教育やタブレット等の活用を推進していく中で、情報モラル教育の取組を強化していくことが必要です。また、幼小中一貫教育の取組でもある「めざす子ども像」を共有した生活スタンダード等の定着を、家庭や地域と連携しながらさらに進めていくことも有効とみています。

## (2) 学習面

本市児童の学習面では、これまで課題となっていた「休日の学習習慣」が少しずつ定着してきており、「予習」して次の学習に臨む児童が全国平均より高い割合となっています。今後も学校は、児童が家庭で取り組んできた学習内容を丁寧に把握し、具体的な励ましの言葉で返すなど、家庭での学習が継続した取組につながるよう様々な機会を捉えて支援していくことが必要です。

また、授業中の取組では、全国平均にはやや及ばないものの、3年連続で「国語の授業で資料を読み、考えを話したり書いたりしている」や「算数でもっと簡単に解く方法がないか考える」項目が改善傾向にあり、各校の授業改善が進んでいることが伺えます。こうした傾向は、「話し合うとき、人の話や意見を最後まで聞く」や「話し合うとき友達の考えを受け止めて自分の考えをもつ」等の学習への参加意欲にもつながっています。引き続き、本市児童の確かな学力の定着に向けて、わかる授業をめざした授業改善の取組を確かなものにしていくことが必要です。

一方、課題としては、「授業のはじめに（授業の中で）目標を示すこと」や「授業の最後に振り返る活動を行っていた」、「ノートに学習の目標とまとめを書く」の項目で、全国と比較しても課題があるとみています。文部科学省のクロス集計によると、この3つの項目と学力には相関関係があるとみられており、引き続き、教員各自が意識して授業に臨むことが大切です。そのために、板書を活用して学習のめあてや振り返りを確認させる授業の展開を学年内や教科部会等で確認し合うことが重要です。

また、「授業では、自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して発表する」項目についても、課題があるとみています。話し合い活動等で折り合いをつけて意見をまとめたり、自分の考えを発表したりすることができる力を身に付けるには、教員各自が児童の思いを受け止め、個々の特性を捉え、児童自身が主体的に進めているという意識がもてるよう工夫しながら課題の設定や表現に至る授業を、全ての教科等で展開する必要があります。

こうした授業改善の取組は、児童自らが、問題解決する過程を「自分ごと」として経験することにより、さらに学習意欲や自己肯定感を高めることにつながると考えられます。授業を展開するにあたっては、自分の考えを進んで表出できるよう、日頃から温かな聞き方や優しい話し方を定着させる等の学校全体の支援が求められます。

# 「教科及び児童質問紙に関する調査」結果の分析及び手だて

(中学校)

## 1 中学校国語科

「知識」「活用」とともに、全国公立学校の平均正答率と大きな差は見られませんでした。これは各校での協働的学びの推進や言語活動を重視した授業改善を進めていることが成果となって表れてきているものと考えます。

### (1) 「知識」に関する調査

#### 「話すこと・聞くこと」

◎目的に応じて資料を効果的に活用して話すことは、相当数の生徒ができており、全国と同等程度理解できています。

◇相手に分かりやすいように語句を選択して話すことの無回答率がやや高く、課題が見られます。

#### 「書くこと」

◎目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめることは、相当数の生徒ができています。

◇文章の構成を工夫して分かりやすく書くことに、やや課題が見られます。

#### 「読むこと」

◎文章の表現の仕方について自分の考えをもつことは、全国と同等程度できています。

◇文章の要旨を捉えることに、やや課題が見られます。

#### 「伝統的な言語文化」

◎漢字を正しく読むこと「覚悟（かくご）」について相当数の生徒ができています。

◇漢字を正しく書くこと「きぼ（規模）」「えんき（延期）」に課題が見られます。

◇適切な言葉を考えることに課題が見られます。

◇楷書と行書との違いを理解することに課題が見られます。

#### 【手だて】

・現在中学校では、生徒同士の学びあいを授業の中に多く取り入れており、その結果、基礎的な学力の定着が見られ、特に話すこと・聞くことの設定で成果が見られることがありました。生徒の対話を意識して取り入れ、主体的に取り組める授業展開を設定したり、生活の中でも相手の考えを聞き、自分の考えを伝える機会を多く持ったりすることが重要です。また、豊かな表現や言葉に触れる体験を増やすことも有効です。

・漢字を書くこと、文章を書くことは、練習の分量だけでなく、書く必然性や書きたいという意欲が重要です。日記など、自分の言葉で書く習慣をつけることが効果的です。また、表意文字である漢字の意味について理解したり、部首に注目して理解を深めたりすることも効果的です。また、本市が作成している「わくわく学習プリント集」や県教育委員会が作成している「課題解決教材」等を活用することも有効です。

### (2) 「活用」に関する調査

#### 「話すこと・聞くこと」

◎目的に応じて資料を効果的に活用して話すことについては、全国と同等程度できています。

◇事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことの無回答率がやや高く、課題が見られます。

#### 「書くこと」

◎自分なりに物事を考えて、自分から書いて発信しようとする意欲は見られます。

◇比喩について、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことの無回答率が高いです。

#### 「読むこと」

◎登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することについては、全国と同等程度できています。

◇場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することに課題が見られます。

### 【手だて】

- ・表現の仕方について捉え、自分の考えを書くには、なぜそのように感じたか根拠を明確にして書くことが大切です。文章を書く際に説明や具体例を加えたり、心の動きや身の回りの様々な物事の描写を工夫したりするなどの、表現の工夫を意図的に行えるように指導することも大切です。国語の時間だけではなく、学級活動や総合的な学習の時間、朝の時間なども活用し、短い文章を書くことを積み重ね、書くことへの抵抗感をなくすことも効果的です。
- ・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解するには、複数の場面や描写を関係付けて読むことが大切です。登場人物の心情や表現の仕方について、生徒同士が考えたことを交流する学習活動も効果的です。また、読解の学習の中で、要約したり大事な部分を抜き出したりする活動を取り入れ、生徒同士で比較することで読みを深める学習も考えられます。

## 2 中学校数学科

「知識」「活用」とともに、全国公立学校の平均正答率と大きな差は見られませんでした。これは各校での協働的学びの推進や言語活動を重視した授業改善を進めていることが成果となって表れてきているものと考えます。

### (1) 「知識」に関する調査

#### 「数と式」

- ◎数の範囲の拡張や、自然数の概念を理解することができていますが、さらに理解を深める必要があります。
- ◇一元一次方程式を解くことや、一元一次方程式の活用に課題が見られます。

#### 「図形」

- ◎平面図形や空間図形における、平行移動や、平面図形や空間図形の性質を読み取ったりすることが概ねできています。
- ◎証明に必要な合同条件の理解や証明の意味及びその方法について概ね理解できています。
- ◇扇形の弧の長さや面積並びに基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積を求めることに課題が見られます。

#### 「関数」

- ◎一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、 $x$  と  $y$  の関係を  $y=ax+b$  の形で表すことは概ねできています。
- ◇反比例のグラフと対応する2つの値から、式を求めることに課題が見られます。

#### 「資料の活用」

- ◇度数分布表を用いて、相対度数を求めることに課題が見られます。

### 【手だて】

- ・基礎基本の定着を図るために、本市が作成している「フリプリ」や「わくわく学習プリント集」等を活用することが有効です。また新しい単元に入るときには、以前の学年で学習した内容を学び直すことも大切です。
- ・ある中学校では、授業中に生徒同士が教え合い、学び合う活動を多く取り入れています。その結果、基礎基本の定着に成果が見られました。授業の中で、グループやペアでの協働的な学習の場面を意図的に設定していくことが効果的です。



## (2) 「活用」に関する調査

### 「数と式」

- ◎問題場面における考察の対象を明確に捉えることが概ねできています。
- ◇与えられた説明の道筋を読み取り、事象を数学的に表現することに課題が見られます。

### 「図形」

- ◎事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることが概ねできています。
- ◇2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することにやや課題が見られます。

### 「関数」

- ◎与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることは相当数の生徒ができています。
- ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することにやや課題が見られ、無解答率が高いです。

### 「資料の活用」

- ◎資料から必要な情報を適切に読み取ることが概ねできていますが、さらに理解を深める必要があります。
- ◇資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する場面において、相対度数の意味を理解し、相対度数の値を求めることに課題が見られます。

### 【手だて】

- ・資料の活用で学んだことを活かして、日常生活や社会の事象にある問題について考える機会をもつことが大切です。
- ・数学的活動に取り組む機会を増やし、数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにしていく必要があります。また、無回答を減らすためには、途中まででも書こうとする生徒の姿勢を、日頃の授業から認めていくことが有効です。

### 3 中学校質問紙

	27年度 【%】	28年度 【%】	29年度 【%】	全国 【%】
学校のきまりを守っている	91.4	92.3	92.7	95.2
学校で友達に会うのは楽しい		93.1	91.4	94.6
話し合う時、人の話や意見を最後まで聞く	92.0	93.0	93.6	94.6
朝食を毎日食べている	91.4	89.1	88.5	93.2
毎日同じ位の時刻に寝ている	69.5	70.9	67.4	75.6
毎日同じ位の時刻に起きている	90.8	89.6	89.0	92.4
地域や社会の問題や出来事に関心がある	53.4	64.1	54.9	59.2
ボランティアに参加する		59.6	58.6	49.7
テレビやインターネットのニュースを見る	85.3	87.8	87.1	86.7
道徳で考えを深めたり話しあったりする		66.2	61.0	76.0
授業の中で目標が示された	63.2	69.8	78.6	87.8
授業の最後に振り返る活動を行っていた	51.3	51.6	54.6	66.1
ノートに目標やまとめを書いた	52.0	58.4	62.5	80.3
数学は好き	57.2	57.4	57.0	55.4
数学は大切	76.3	72.4	77.4	81.1
数学はよくわかる	73.9	67.9	70.3	69.4
数学ができるようになりたい	89.3	88.9	90.3	91.2
数学では解き方や考え方が分かるようにノートに書く	80.4	82.3	81.4	81.3
読書が好き	55.8	54.3	58.0	69.9
国語がよくわかる	82.1	78.0	77.3	82.2

#### 【質問紙に対する分析及び手だて】

##### (1) 生活面

本市生徒の生活面では、「学校のきまりを守っている」「学校で友達に会うのは楽しい」「話し合う時、人の話や意見を最後まで聞く」と回答した生徒の割合は、ほぼ全国と同程度となっており、ピアサポート等リーダー育成も含めた各校の丁寧な生徒支援の成果が表れています。自分の居場所があり、安心して生活できる学校は、落ち着いて学習する

雰囲気醸成することから、生徒たちが、「学校が楽しい」と感じることができるよう、引き続き個に応じた支援、心に寄り添った支援を充実させていくことが望まれます。

また、「地域や社会で起きている問題や出来事に興味がある」生徒の割合は全国と比較してやや低くなっているものの、「ボランティアに参加している」生徒の割合は全国平均を上回っています。このことは、本市が進めているコミュニティスクールや子どもを育む懇談会等、地域とともにある学校づくりが進んでいる成果とみています。教育委員会としては、地域社会でも子どもたちが認められ、活躍できる場が増えていくよう引き続き各校と協力して、地域とともにある学校づくりを進めて参ります。

一方、課題としては、「朝食を毎日食べている」「毎日同じ位の時刻に寝ている」「毎日同じ位の時刻に起きている」の3項目は依然として改善が求められています。規則正しい生活と十分な睡眠は、成長期である生徒にとって重要であり、保護者の意識を高めることができるよう家庭と学校との連携を図るとともに、生徒自身の自立を促していくような取組が必要です。また「テレビやインターネットのニュースを見る」が8割を超えていることから、情報を得る手段としてはテレビやインターネットからが新聞よりはるかに多くなっており、自分専用のテレビやパソコン、あるいはスマートフォンを持っているなど生活スタイルの変化も影響していると思われます。こうしたことからパソコンやテレビやスマートフォン等を使う時間について、家族で話し合って約束を決めることも大切となり、情報モラル教育を進める中で、約束の必要性について学校と家庭で再確認する等、生徒自身が主体的に約束を守ろうとする態度を育むことが必要となります。そのために、小中一貫教育を進める中で、小学校で行っている情報モラル教育の取組を踏まえて、道徳の時間等も活用しながら引き続き重点化して取り組む必要があります。

## (2) 学習面

本市生徒の学習面では、全国平均には及ばないものの「授業の中で目標が示された」「授業の最後に振り返る活動を行っていた」「ノートに目標やまとめを書いた」の割合が、年々増加傾向にあり、各校での改善への取組の成果が出ています。「何がわかるようになったか、何ができるようになったか」と生徒が実感できることは、学習意欲の向上につながっていきますので、生徒一人ひとりの学習状況を把握するとともに、すべての生徒が「わかる、できる」を実感できる授業づくりの実践が求められます。

また、「数学は好き」「数学はよくわかる」の割合が、全国平均を上回っており、中学校教育研究部会や各校の教科部会等での取組が改善につながっていると分析しています。数学は、分かることで自信がつき、目標を達成できる喜びや「数学ができるようになりたい」という意欲や期待感につながります。さらに、「数学では解き方や考え方が分かるようにノートに書く」ことも全国平均を上回っており、引き続き日々の授業の積み重ねを丁寧支援していく必要性を感じます。

一方、課題としては「読書は好き」や「国語がよくわかる」の項目が、全国と比べて低くなっています。平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、13歳以降は「成熟読書期」に入り、「多読の傾向から感動した本を何度も読み、論文なども読める発達段階にある」とされており、各校では限られた時間の中で、生徒の実態に応じて、図書室経営とも連携させながら意図的に本に出会わせ、読み味を味わせる工夫が一層求められます。

また、学校という環境において学ぶことの意味の一つに「仲間と共に学ぶこと」があります。学級においては、仲間の力を借りたり、全員の力を集めたりして問題を解決していく際、様々な場面において仲間の考えを取り入れたり比べたりしながら、異なる考えを認める等の姿が大切であり、そうした場面を見つけて学校・家庭・地域が積極的に褒め、子どもたちの自己肯定感を高めていくことが必要です。現在各学校が取り組んでいる学校研究をさらに推し進めていく中で、お互いに学び合う雰囲気をつくることを意識した学級運営を心掛けていくことも学力向上につながっていくとみています。

## 秦野市の今後の取組に向けて

秦野市教育委員会では、本市の児童生徒の学力や学習状況の分析とその改善を図るため、活用検討委員会を組織した上で調査結果の分析を行い、今後の学力向上と教育指導に何が大切かを含めて議論してまいりました。

活用検討委員会の中では、今年度新たに委員として加わっていただいた学識経験者より、小中学校の学習指導要領と全国学力・学習状況調査は両輪の関係にあり、例えば「活用」に関する調査の内容は、具体的な授業を想定した設問であるという意見をいただいております。更に、活用検討委員会としては、学力向上のために調査結果を今後の授業づくりや教育活動により一層活かしていくことが必要とみており、分析結果とは別に、今後の取組に向けた学校・家庭・地域へのメッセージを次のようにまとめました。

学校では、学力と学習意欲の双方を高めていけるよう、授業改善を進め、児童生徒がもっと知りたい・もっと分かりたいと思える授業を展開できるよう、研究・研修を深めることが求められており、引き続き調査結果から児童生徒の学力や学習状況を把握し、各校での分析結果を全職員で共有し、学校全体の教育活動に生かしていくことが大切だと考えています。

一方、調査結果から基本的な生活習慣は基礎学力と関係していることが今年度も改めて話題となりました。各家庭においては、よりよい生活習慣や態度の定着へのご協力が不可欠です。また、家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向が見られました。充実した家庭学習に取り組める環境を整えてあげることも重要ですので、幼小中一貫教育の取組の中で作成された中学校区での生活スタンダード等を活用するなどして、引き続き各家庭でできる工夫をお願いします。

さらに、地域の行事に参加している児童生徒の割合は、まだまだ改善していく必要があると思われま。地域の皆様には、地域の教育力を生かした学校教育へのご協力を引き続きお願いしたいと考えています。

**【秦野市全国学力学習状況調査結果分析・活用検討委員会】**

教育委員会では、こうした活用検討委員会の議論を踏まえ、今回の分析結果を市内各校とも更に共有し、各校のよい実践や子どもの姿に波及させていけるよう努めながら、各学校と協力して学力向上と教育指導を一層充実させることが重要だと考えています。今後も幼小中一貫教育や地域とともにある学校づくりを推進しながら、よりよい教育活動が展開されるよう、関係部局との連携を進め、学校を支援してまいりますので、引き続き秦野の子どもたちが輝くために、御理解と御支援をよろしくをお願いします。